

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞  
学校教育部門

「ネットワークを活用した“期間限定 かやの宇宙サークル”の試み  
学校・地域・保護者が協働で総合学習を創るために」

大阪府箕面市立萱野小学校

URL : <http://www.city.minoh.osaka.jp/kayano-ele/html>

### 実践のねらい

インターネットによって実現されるネットワークとは、時間や場所の制約を超え、個の学びを協働の知へと紡ぎ上げていくものであろう。

本校の進学先である箕面第二中学校が、宇宙開発事業団（NASDA）

などの主催による「宇宙に好奇心！国際宇宙ステーションとインターネットでつくる宇宙授業」の代表参加校に選出されたのを機に、本校でも“期間限定 かやの宇宙サークル”（資料1）を立ち上げた。発起人は情報教育担当教職員3名。参加対象は高学年児童有志と地域・保護者の方々である。

本実践は、学年や学級の枠を外した実験的な総合学習の試みであり、そのねらいを下記の3点にまとめることができる。

- ・多様な情報を活用した総合的な学習活動を行う
- ・地域や保護者との協働による総合的な学習活動のあり方を追求する
- ・総合的な学習活動を構成していくノウハウを共有する

このようなねらいにむけて、インターネットを活用しつつ、学校・地域・保護者が協働することが、学校教育の可能性をどのように拡張し、子どもたちの学習活動をいかに豊かで確かなものにしていくかを検証していきたい。

### 特徴・工夫・努力した点

- (1) 多様な情報を活用した総合的な学習活動を行う

萱野小学校では、総合学習の柱として、《もとめる》《伝えあう》《つながる》の3つを設定している。今回は、下記のa～cの柱をもとに、インターネットを含む多様な情報の活用を組み込んだ。

- a. 学習者自身の興味・関心から出発する  
《もとめる》

- b. 学習者どうしや参加者との交流を繰り返す  
《伝えあう》  
c. 多様な情報を結びつけながら認識を深める  
《つながる》

- (2) 地域や保護者との協働による総合的な学習活動のあり方を追求する

宇宙サークルの活動を開始するにあたって、高学年の子どもたちに案内すると同時に、地域や保護者にも参加を呼びかけた。

活動時間に学校へ来てくださり、子どもたちといっしょにホームページを検索してくださる保護者もあれば、電子メールで子どもたちの疑問に答えてくださる保護者もあった。また、天体観測会や宇宙授業では、子どもたちといっしょに学習するだけでなく、月の話や絵本の読み語りなども担当していただいた。そのような地域や保護者との協働を円滑に進めていくため、ホームページ上に、その日の学習のようすや子どもたちからの情報を掲載し、学校・地域・家庭をリアルタイムで結んだ。

- (3) 総合的な学習活動を構成していくノウハウを共有する

運動会前の慌ただしい時期であり、打ち合わせの大部分を電子メールを使って行うことになった。

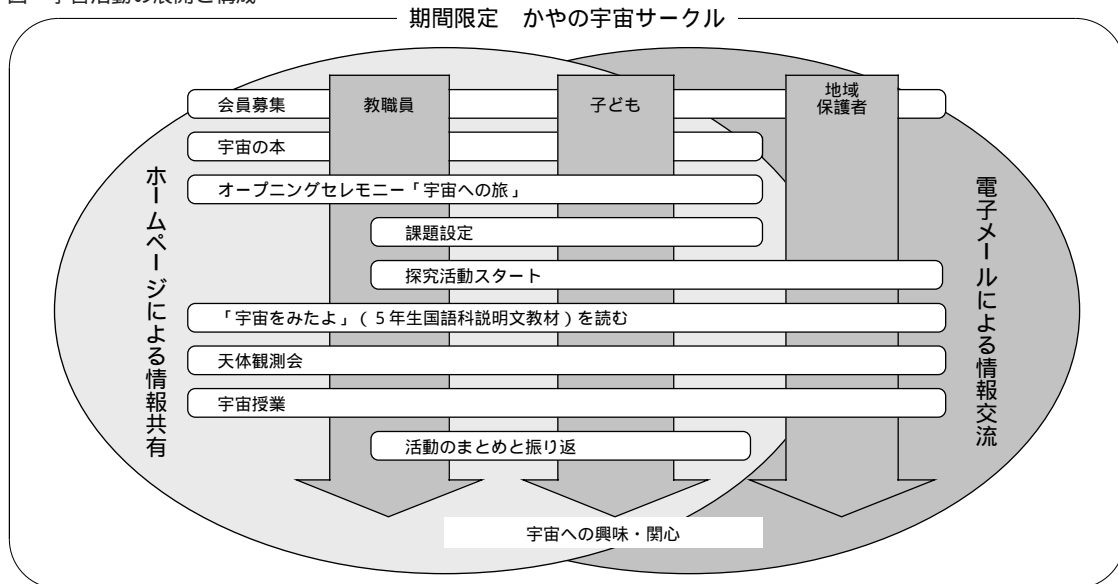
また、活動の過程や使用した案内文・ワークシート・台本などは可能な限りホームページ上に掲載した。総合学習の展開や構成、記録やツール類を電子データとして保存しておくことにより、どのような手法を使ったかを知ることができる。このような情報を蓄積していくことにより、情報教育や総合学習に関するノウハウの共有や開発を進めていきたい。

### 実践内容と実践結果

本実践は、平成13年9月12日（木）から27日（金）までの休憩時間（30分×10日）を中心に展開した。17日（火）から26日（木）までの7日間は、昼休み（20分間）にもコンピュータ室を開放し、自主的な活動を行った。19日（金）の天体観測会（約40分）や25日（水）の宇宙授業（約150分）も含めると、全活動時間は、10時間ほどということになる。

宇宙サークルに会員登録した3年生から6年生の児童18名のうち全期間をとおして活動したのは10名ほどであった。日々の活動に直接参加いただいた保護者は2名。電子メールによるサポートをしてくださった保護者や地域の方が3名。天体観測会と宇宙授業当日には20名を越す参加があった。

図・学習活動の展開と構成



(1) 宇宙をテーマに、多様な情報を活用した総合的な学習活動をおこなう

a. 学習者自身の興味・関心から出発する《もどめる》

今回の総合学習のきっかけは、箕面第二中学校の宇宙授業への参加であるが、本校の情報教育担当者3名のうち2名が天文ファンであったことによるところも大きい。宇宙に関心のある教職員が宇宙に関心のある子どもたちや地域・保護者の方々に呼びかけ“期間限定 かやの宇宙サークル”を組織(図)したのである。

本やホームページをとおして、宇宙についての興味や関心を高める

子どもたちの興味・関心を高めるための環境整備として、視聴覚室の一角に「宇宙コーナー」を設置し、宇宙に関する本や資料を集めた。

教職員による導入宇宙劇「惑星への旅」(写真1)

学習活動への導入は、情報教育担当3名が出演する宇宙劇「惑星への旅」によって行った。その後で、宇宙サークルの活動について説明し、参加希望者に「会員登録カード」を配った。子どもたち自身の主体的な参加を求めるためである。



写真1・導入宇宙劇「惑星への旅」

▶資料2・会員登録カード

かやの宇宙サークル		会員登録カード
( )年( )組	名前( )	
[ ]		
インターネットで使うニックネーム		
[ ]		

会員登録カード(資料2)には、「宇宙について知っていること」や「宇宙について知りたいこと」、取り組みたいテーマや活動などを記入し、個々の学習の出発点を定めた。

自分が選んだ「ミッション」について、ホームページなどを使って調べる

会員登録カードに書かれた子どもたち自身の課題と、宇宙授業で提案されているテーマをもとに、6つの「ミッション」を設定した。宇宙開発や宇宙実験にも意識を向けるため「宇宙をみたよ」という毛利宇宙飛行士の文章(光村図書「5年生国語」)を読むことにした。

b. 学習者どうしや参加者との交流を繰り返す

《伝えあう》

子どもたちの疑問や情報をホームページ上に掲載していくことにより、互いに交流したり共有したりできるようにした。さらに、インターネットをとおし、地域や保護者の方々が学習活動に参加することが可能になった。また、本やインターネットの情報に加えて、天体観測会を開催することにより、実際に月や星を見ながら、直接的な情報交流も行った。

個々の疑問や意見をホームページ上に掲載して交流する(写真2)

今回はインターネットで学習を展開するため、本名ではなくニックネームを使うことにした。そのため、



写真2・ホームページに掲載された情報を読み合う児童

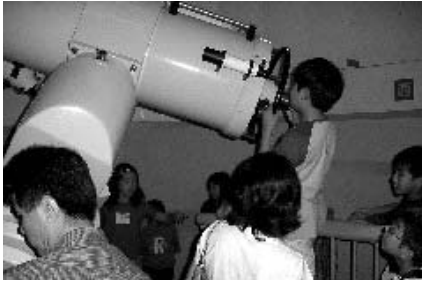


写真3・天体観測会



写真4・宇宙について知りたいことなどを記入

誰が子どもで誰がおとなかということとはわからない。ホームページに掲載された情報のなかには教職員の意見が紛れ込んでいたりもする。そのホームページの更新を、毎日すみやかに行うことにより、子どもたち自身が学習の進行状況や成果を確認しながら活動を続けていけるようにした。

電子メールを活用して情報のやりとりを行う

電子メールのやりとりは情報教育担当が中継するかたちでおこなった。保護者から届けられたメールには、子どもたちの疑問を解決する手がかりとなるようなホームページが紹介されていたりして、学習の幅を広げ、内容を深めていくことができた。箕面第二中学校との交流にも、電子メールを活用した。

天体観測会や宇宙授業の場で参加者と直接伝えあう

天体観測会や宇宙授業は、実際に月や星を観測したり、宇宙ステーションとのやりとりを見ながら、みんなと話しあえるという貴重な場であった(写真3)。

c. 多様な情報を結びつけながら認識を深める

《つながる》

子どもたち自身の疑問や、探究活動のなかで得た情報をホームページ上に整理していくことにより、宇宙についての認識を深めることをめざした。

疑問や意見をワークシートに書き込むことで意識化する(写真4)

子どもたちの疑問や意見、探究活動のなかで得た情報などをかたちとして残していくためのワークシートを数種類用意した。

ワープロソフトを使って自分が得た情報を整理する  
それぞれの学習の成果を、ワープロソフトを使ってホームページにまとめた。

ワークシートやホームページをもとに、学習活動を振り返る

ワークシートやホームページとして残されている学習の記録をもとに、宇宙サークルの活動全体を振り返った。

(2) 地域や保護者との協働による総合的な学習活動のあり方を追求する

保護者からいただいたメールのなかに「私自身もこの機会にとってもよい勉強になっています。子どもたちと一緒にホームページを作っていくのは楽しいですね」という言葉があった。また、子どもの側からは、「調べたことは、すぐホームページにのりますので、そのことに関する感想や、もう少しくわしいことなどもお知らせいただけるとうれいします」と述べている。同じ想いは、コーディネーター役であるわれわれ教職

員も感じていた。共に何かを創りつつ学んでいるという実感を持てたことが何よりも貴重だったのではないだろうか。電子メールにせよ、天文観測会での話にせよ、宇宙授業での読み語りにせよ、依頼したのは学校側であるが、中身にはそれぞれの創意工夫が凝らされており、地域や保護者の方々の力を主体的に発揮していただくことができたように思う。

(3) 総合的な学習活動を構成していくノウハウを共有する

今回の実践については、可能な限りを電子データに変換してホームページ上に保管した。そういった実践のノウハウを、われわれ教職員が共有して活用していくだけではなく、むしろ、地域や保護者とも共有し、今後の総合学習に生かしていくことが重要なかもしれない。インターネットを活用した学校教育の可能性は、そこから開けていくと考えられる。

### 考察(今後の課題)

今回の実践の成果は、下記のようにまとめることができる。

- ・インターネットなどの情報を活用し、宇宙についての興味・関心を深めることができた
- ・地域や保護者の方々が多様な形態で活動に参加していただくことができた
- ・学習の展開や構成に電子メールを活用し、その成果をホームページ上に残すことができた

何よりも、活動に関わったメンバーが宇宙というテーマの持つ面白さを実感し、新たな学習に向けての意欲を持てたことが最大の収穫であっただろう。今回の活動をとおして結ばれた人的なネットワークやインターネットの活用経験は、今後の総合学習を支えていくことになるに違いない。

しかしながら、限られた時間のなかで行った実践であり、準備不足も目立った。特に、実践の構想段階から地域や保護者の参画を得ることができれば、さらに充実した内容となっていたかもしれない。

本実践の成果をもとに、インターネットを活用し、教職員、子ども、地域・保護者が、時間や場所の制約を超えた総合的な学習活動を展開できるよう、さらなる実践を積み重ねていきたい。

関連ホームページ

- ・宇宙に好奇心! 国際宇宙ステーションとインターネットでつくる宇宙授業

<http://bm.ws19.arena.ne.jp/nasda2002/index.html>